

の全国一斉ホットラインについては、再度アスベスト健康被害に焦点をあてながら、12月1-2日に実施する方針が確認された。

香川と愛媛は、1995～2005年の11年間の平均年間10万人当たり中皮腫死亡数が0.652人(全国平均0.564人)で、都道府県別で第11位と第10位を占める。高松市、観音寺市、三豊市では全国平均の2倍を超えている。

香川県では昨年末に「アスベスト健康被害防止条例」を定めたほか、様々な取り組みを行っている (<http://www.pref.kagawa.jp/kankyo/asbestos/asbestos.htm>)。

国の法令の不備を補うべく、同条例では、建築物の所有者に

アスベスト含有吹き付けの有無・使用状況を確認して届け出ることを義務づけており、「多数の者が使用する建築物」に係る届出の期限は9月末とされている。

9月20日には、届出対象施設の見込数約5,200棟に対して、15日現在の届出数が2,574棟(うちアスベスト吹き付け材使用が74棟)で約50%にとどまっているとの中間報告を発表して、条例の一層の徹底を呼びかけている。

今回の総会及び相談会・後援会の開催が、今後の香川におけるアスベスト健康被害の掘り起こしや様々な対策の進展、労働安全衛生活動の発展にながしかの貢献になったことを期待している。



衛生センターでは、連合徳島にも協力要請をして全面的な支援を決定、JTとの交渉を重ねた。JTは、すでに池田工場は閉鎖され関係書類もない、事情を聞いた方もかなり高齢で昔の話なので記憶も定かでない、全国的にくつつかの工場でも調べたが確認がなかった等々と主張。また、形式的には労災請求の手続が行われていないので、いわゆる「時効救済」としてJRが定めた措置に準じる救済内容を提案するなどした。

これに対して遺族と徳島労働安全衛生センターは、中皮腫がアスベスト曝露によることは明らか、遺族の要求に対して手続をとってこなかったのは会社側の責任であっていわゆる「時効救済」ではないことなどを主張するとともに、独自に遺族年金等の解決策を提案。結果的に提案がかなり受け入れられたかたちで、解決に至った。

9月24日の全国安全センター第17回総会に遺族がご出席して、ご報告していただいた。以下に紹介する。

× × ×

今日は主人の母とふたりで参加させていただきました。徳島県三好郡池田町に在住しています。

主人の父は、日本たばこに約40年間勤め、退職後4年目に発病しました。亡き義父の面影を偲び当時を思い出すと義母の苦労や家族の心労は筆舌を絶するものでした。病魔と闘い抜いたとき義父は58歳でした(1984年2月に悪性中皮腫と診断され、1986年

日本たばこ初の中皮腫補償

徳島●遺族・安全センターがJTと交渉

昨年12月に実施した全国一斉ホットラインで徳島労働安全衛生センターに、旧専売公社池田工場元労働者の遺族からの相談が寄せられた。被災者は、1941～1979年の間同工場働き、工場内の配管設備の保温作業等でアスベストに曝露したと思われる。1983年に呼吸器症状を発症、県立病院や徳島大学病院などで治療を受け、びまん性悪性胸膜中皮腫という診断がなされている。1986年1月に58歳で亡くなられた。

主治医から労災補償の対象になるのではと示唆され、家族が、日本たばこ(JT)や労働基準監督署に必要な手続等を再三求めた。しかし、民間労働者と専売公社の手続先等の違い、中皮腫の労災認定とじん肺管理区分申請の違い等について、誰からも適切な情報が示されないままたらい回し、放置される状態が続いた。遺族は、元同僚の方たちから業務内容の証明書なども書いてもらっていた。

相談を受けた徳島労働安全

1月逝去)。悪性中皮腫という病気で、通常1~2mmの胸膜が1~2cmにもなり、肺に溜まった1リットルの水を87回抜き、呼吸は苦しくなるばかりでした。そしてレントゲンは真っ白でした。いまでも母はそのレントゲンを持っています。

ちょうど義父が亡くなる前に友人が家に見舞いに来ていたとき、玄関に送り出すときに、「もうちょっとで元気になるからな」と言った父の姿がいまでも頭から離れることはありません。それから10日後に義父は亡くなりました。今日話題になっているアスベストとは露知らず、何という難病なんだろうと思っていました。

徳大の先生から父の病名を聞き、アスベストという聞き慣れない言葉をこのとき初めて知りました。石綿をどこかで取り扱いませんでしたか、ヨーロッパではすでに禁止されているんですよと聞かされ、義父は、若いときに配管のまわりに巻いていたものをずっと削って外してきたことを話しました。戦時中に鉄を供出せよということで、日本中で行われていたことの一環でした。

その当時一緒に働いていた生き証人とも言える方に1年ほど後に聞いた話ですが、床にもぐって素手で石綿を外して埃まみれになりながら、床からちょっと頭を出したときに、その女性の事務員さんが「まあそんなになって…早うあがってお茶でも飲みな」と言って淹れてくれたお茶がいまでも忘れられないと、本当に生々しい話を聞きました。

徳大の先生から、これは日本

たばこに申し入れるようにと勧めていただきました。弁護士さんにもお願いし医者診断書を持って日本たばこへ、そして監督署にも行きましたが、まったく受け付けてくれません。20年前、アスベストといっても危機感がなく、「専売公社から金を取ろうと思ってもらうはいかん」とか、もっともっとひどい言葉も返ってきました。

主人も私も専売公社に勤務していましたので、上司に非常に冷たい目でみられました。義母もそれで躊躇した面もあると思いますが、時効になるので裁判を言ったら、日本たばこは「考えてみるからちょっと待ってほしい」と言うので、待っていたらそのままのかたちで現在に至りました。

昨年の暮れ新聞で徳島労働安全衛生センターのことを知り、早速連絡をして現状を話しました。安全センターの方々は熱心に話を聞いていただき、日本たばここと何回も交渉していただきまし

た。安全センターのご協力がなければ私たち家族は本当に泣き寝入りでした。亡き義父も浮かべられないままだったと思います。私たちの積年の思いが日の当たる結論をみました。

先月8月8日、日本たばこ本社の方々わが家を訪れ、仏壇に頭を下げていただきました。長さ22年間の苦しみが徳島安全センターの皆様のおかげで少しずつゆるみかけています。本当にありがとうございます。亡き義父の墓前に報告できたことの喜びをいまかみしめています。

私たちの思いは達せられましたが、まだまだ安全センターにはたくさんの方々の解決しなければならぬことがあろうかと思えます。日本は何か起こってからでないと問題にしない悪い風潮があります。そういう世の中では本当にいけません。私たちが微力ながら協力していきたいと思っています。



旧朝日石綿鶴見工場の問題

神奈川●胸膜肥厚斑も含め補償協定

工場周辺住民のアスベスト被害は尼崎のクボタだけではない。神奈川県では、旧朝日石綿(1987年にアスクと社名変更し、2000年に浅野スレートと合併して、エアンドエマテリアルとなった。本社：横浜市鶴見区中央2-5-5)横浜工場でも深刻なアスベスト被

害が発生していた。

旧朝日石綿横浜工場は、戦前から1975年まで、JR鶴見駅近くの国道(旧東海道)沿いにあった。国道を挟んで西に第一工場、東に第二工場があり、波形スレート、大平板、紡織品、シリカ保温材、マリライト、フレキシブルボー